

東日本大震災被災者の自宅再建時における  
近隣交流の変化と阻害要因

—岩手県大槌町で分散居住した被災高齢者に着目して—

Changes and Obstructive Factors Regarding Neighborhood Socialization During Housing  
Reconstruction for Disaster Victims of the Great East Japan Earthquake  
—Focusing on Elderly People Affected by the Dispersion of Residences in Otsuchi Town, Iwate—

阿 部 一咲子  
Isako ABE

平 田 京 子  
Kyoko HIRATA

# 東日本大震災被災者の自宅再建時における 近隣交流の変化と阻害要因

—岩手県大槌町で分散居住した被災高齢者に着目して—

Changes and Obstructive Factors Regarding Neighborhood Socialization During Housing  
Reconstruction for Disaster Victims of the Great East Japan Earthquake  
—Focusing on Elderly People Affected by the Dispersion of Residences in Otsuchi Town, Iwate—

阿部 一咲子\* 平田 京子\*\*  
Isako ABE Kyoko HIRATA

**Abstract** Six years have passed since the Great East Japan Earthquake struck in 2011. The lives of the disaster victims are still in the process of being reconstructed. It is necessary for us to consider neighborhood socialization as part of the processing the lives of victims. We interviewed elderly residents of Otsuchi town who experienced difficulties in regaining their social circles and homes. We attempted to explore the means of housing recovery maintenance pertaining to neighborhood socialization for elderly people. Many of the subjects neighborhood socialization recovery efforts decreased in the aftermath of the earthquake. Even though the subjects recognized the importance of neighborhood socialization and considered rebuilding their houses, they encountered various obstacles to this. The first point was that they could not live in the same places they had lived in before the earthquake; the second point was that they did not think that neighborhood socialization was a top priority; and the third point was that they could not adapt well to their new neighborhoods.

**Key words:** Great East Japan Earthquake 東日本大震災, Interviews インタビュー調査, Neighborhood Socialization 近所付き合い, Temporary Houses 仮設住宅, Reconstructed Houses 再建住宅

## 1. はじめに

2011年3月11日の東日本大震災発生から6年が経過したが、被災者の生活再建は未だ途中段階であり、多くが震災による環境変化により、かつての地域コミュニティを失い、震災前の地域コミュニティを再構築できずにいる。

被災者の生活再建に関して、阪神・淡路大震災時に生活再建とは何かを定義するため、先行研究<sup>1,2,3)</sup>

で神戸市震災復興総括・検証研究会の生活再建部会が生活再建には「すまい」、「つながり」、「まち」、「そなえ」、「こころとからだ」、「景気・生業・くらしむき」、「行政との関わり」、「人生観・価値観の変化」、「震災体験・教訓の発信」の9要素が重要であることを明らかにし、これを用いて、生活再建の度合いの計測も行われている。

生活再建に重要とされる9要素の中でも「つながり」を構成する要素の一つである「人々の交流」は、震災で住まいを失った被災者が短期間のうちに避難所、仮設住宅、復興住宅と何度も引っ越しをすることから、人間関係がそのたびに解消され、一から新しい人間関係を構築しなければならない状況がある<sup>4)</sup>。そこで住宅再建時に人々の近隣交流を考慮す

\* 家政学研究科住居学専攻  
Graduate School of Home Economics, Division of  
Housing and Architecture

\*\* 住居学科  
Department of Housing and Architecture

ることが、被災者の生活再建には重要である。

中でも高齢者は経済的な状況から自力での住宅再建の困難なことが多く、健康面などから交流の取り戻しも困難になるため、高齢者に着目する。

また東日本大震災では住民の分散居住による震災前の近隣交流の分断がみられた。そこで多くの住民が分散居住をした、岩手県大槌町を選定した。

本研究では生活再建に重要な近隣交流を失い、取り戻すことが困難な分散居住した高齢者が、近隣交流を維持して自宅再建する方法を明らかにすることを目的に、近隣交流復興のための知見を探る。

高齢被災者の近隣住民との交流の変化を、住まいの再建段階の中から、震災前、仮設住宅、再建住宅の3段階で調査した。同時に自宅再建を考えた過程を調査し、近隣交流をどのように意識したかをみる。

## 2. 自宅再建時に重視する要素

被災者の自宅再建時の考えを調査するにあたり、自宅再建時にどのような要素を重視するのかを把握するため、既往文献の調査<sup>5-9)</sup>から重視する要素を抽出し、共通項をまとめた。

結果、10項目が挙げられた。安全な高台へ移転して住みたいなどの「土地の安全性」、公共交通・買い物が便利といった「生活の利便性」、医療施設・福祉サービスが整っているという「福祉」、職場へ通勤しやすい、漁業・自営業を続けたいという「仕事」、学校や保育所が近い、通学が便利という「保育・教育施設」、住み慣れた土地である、被災前と同じ場所に住みたいという「土地への愛着」、親や親しい知人、友人がいるという「つながり」、公営住宅に入居したい、戸建てに住みたいという居住形態、土地を持っているという「土地の所有」、元の市町村の復興やまちづくりに時間がかかるなどの「住宅取得までの時間」、住居の補修に行政の支援が受けられる「行政の支援」である。本研究の主な対象は高齢者のため、「保育・教育施設」の重視度は低いと判断し、重視項目から除外した。したがって9項目が、高齢被災者が自宅再建をする際に重視する項目と考えられる。

## 3. 被災高齢者インタビュー調査の概要

2015年から2017年に、大槌町に居住する被災高

齢者47名を対象に、東日本大震災をきっかけとする交流の変化および住宅再建に対する意識に関し、半構造化インタビュー調査を行った (Table 1)。

Table 1 Summary of interviews

|            | 調査1  | 調査2   | 調査3   |
|------------|--|---|---|
| 調査期間       | 2015年10月   | 2016年9月   | 2017年3月   |
| 対象者        | デイサービス施設Aの利用者  | デイサービス施設Bの利用者・大槌町町民                                 | デイサービス施設Bの利用者・仮設住宅集会所の利用者・大槌町町民   |
|            | 女性計14名<br>(70代:5名,<br>80代:7名,<br>90代:2名)   | 女性計19名<br>(60代:3名,<br>70代:4名,<br>80代:8名,<br>90代:4名) | 女性計8名<br>(60代:3名,<br>70代:3名,<br>80代:2名)<br>男性計6名<br>(60代:2名,<br>70代:1名,<br>80代:2名,<br>90代:1名) |
| 調査方法       | インタビュー(各自 1時間程度)   |   |   |
| 主なインタビュー項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>年代、震災前・仮設・再建住宅の居住地域、現在の住宅タイプ、同居家族など基本属性</li> <li>震災前・仮設住宅・再建住宅での地域活動への参加の変化と理由</li> <li>震災前・仮設住宅・再建住宅での近所付き合いと近所以外での付き合いの変化と理由</li> <li>人付き合いに対する価値観</li> <li>すまいに対する価値観</li> </ul> |   |   |

## 4. 調査対象地の被害状況と対象者属性

大槌町は、東日本大震災で最も被害が大きかった自治体の一つである<sup>10)</sup>。津波と大火で、Fig. 1に示した市街地の町方地区が大きな被害を受けた。震災対策本部を開設している時に津波が襲ったため、復興に欠かせない町のリーダーシップを担う町長や役場の課長クラスの幹部、都市政策の職員も含め約60人が津波で流され、行政機能を喪失した<sup>11)</sup>。そのため仮設住宅への入居も住宅ができた都度、応募・抽選を行い、住民の多くは分散した。

Table 2に対象者の年代や同居家族、居住地域の変遷などの属性を表す。再建した際の住居形態に関して、震災前の住宅を修繕し居住した場合は、修繕と表した。

調査1～3の対象者47名中、高齢女性を中心に41名、比較対象として男性6名を調査した。またFig. 2に年代別の対象者人数を表した。80代が17名と最も多かった。また、現在の再建段階別では、自宅再建済みが25名と最も多くみられた (Fig. 3)。

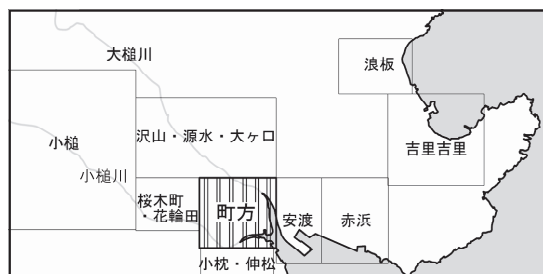


Fig. 1 District allocation of Otsuchi town

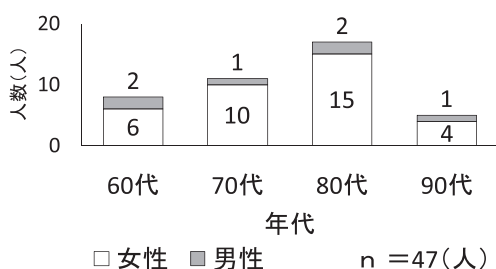


Fig. 2 Number of subjects by age group

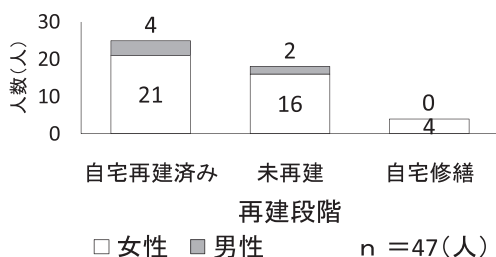


Fig. 3 Number of subjects by reconstruction stage

次に、対象者の居住地の変遷に着目する。分散居住を、再建段階を移る際に異なる地域に移動したと捉えた。仮設に居住し再建した22名中、地域移動をしたのは17名であり、地域移動がないのは5名である。また、地域移動がない5名全員が吉里吉里地域に居住していた。

仮設に居住し、未再建である対象者17名の中で地域移動があったのは11名であり、地域移動がないのは6名だった。この6名のうち、3名が吉里吉里に、3名が赤浜に居住していた。仮設に居住せず自宅再建した、または自宅を修繕した対象者6名は全員に地域移動がなく、吉里吉里に居住していた。

Table 2 Attributes and residential experience of the subjects

|    | 性別 | 年代 | 同居家族        | 居住地域   |                |        | 再建した住居形態   |
|----|----|----|-------------|--------|----------------|--------|------------|
|    |    |    |             | 震災前    | 仮設             | 再建/現在  |            |
| A  | 女性 | 90 | なし          | 町方     | 小楯             | 沢山・大ヶ口 | 災害公営住宅(予定) |
| B  | 女性 | 90 | 娘           | 町方     | 小楯             | -      | -          |
| C  | 女性 | 80 | 息子夫婦        | 安渡     | 不明             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| D  | 女性 | 70 | なし          | 町方     | 小楯             | 不明     | 新築戸建て      |
| E  | 女性 | 80 | なし          | 小楯     | 小楯             | -      | -          |
| F  | 女性 | 70 | なし          | 町方     | 小楯             | -      | -          |
| G  | 女性 | 70 | 夫           | 町方     | 大楯             | -      | -          |
| H  | 女性 | 80 | 息子          | 町方     | 小楯             | 不明     | 新築戸建て      |
| I  | 女性 | 80 | なし          | 町方     | 大楯             | -      | -          |
| J  | 女性 | 70 | 娘・孫         | 安渡     | 小楯             | -      | -          |
| K  | 女性 | 80 | なし          | 町方     | 釜石             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| L  | 女性 | 80 | 弟           | 町方     | 小楯             | 浪板     | 新築戸建て      |
| M  | 女性 | 80 | なし          | 町方     | 小楯             | -      | -          |
| N  | 女性 | 70 | なし          | 町方     | 小楯             | -      | -          |
| A1 | 女性 | 90 | 息子夫婦        | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| B1 | 女性 | 90 | なし          | 浪板     | 吉里吉里           | -      | -          |
| C1 | 女性 | 60 | 夫           | 安渡     | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| D1 | 女性 | 80 | なし          | 沢山・大ヶ口 | 吉里吉里           | -      | -          |
| E1 | 女性 | 70 | 夫           | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 桜木町    | 新築戸建て      |
| F1 | 女性 | 80 | 息子夫婦<br>孫3人 | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 修繕         |
| G1 | 女性 | 90 | 息子2人        | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 修繕         |
| H1 | 女性 | 60 | 夫           | 吉里吉里   | 吉里吉里           | -      | -          |
| I1 | 女性 | 70 | 夫           | 浪板     | 吉里吉里<br>浪板     | 浪板     | 新築戸建て      |
| J1 | 女性 | 80 | 息子夫婦        | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| K1 | 女性 | 70 | 夫・娘         | 浪板     | 吉里吉里           | 浪板     | 新築戸建て      |
| L1 | 女性 | 80 | 息子夫婦        | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| M1 | 女性 | 80 | 弟           | 須賀町    | 小楯             | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| N1 | 女性 | 80 | 娘           | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | 修繕         |
| O1 | 女性 | 90 | 息子夫婦<br>孫1人 | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| P1 | 女性 | 60 | 夫<br>娘1人    | 吉里吉里   | 吉里吉里           | 吉里吉里   | 新築戸建て      |
| Q1 | 女性 | 80 | 夫<br>孫1人    | 吉里吉里   | 吉里吉里           | -      | -          |
| R1 | 女性 | 80 | 夫           | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | 修繕         |
| S1 | 女性 | 70 | なし          | 小楯・仲松  | 小楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| A2 | 男性 | 60 | 妻・娘         | 安渡     | 大楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| B2 | 男性 | 60 | 妻・息子<br>・娘  | 町方     | 小楯             | 桜木町    | 中古戸建て      |
| C2 | 男性 | 70 | 妻           | 桜木町    | 小楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| D2 | 男性 | 80 | 妻・娘         | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | 中古戸建て      |
| E2 | 男性 | 80 | 妻・息子        | 吉里吉里   | 吉里吉里           | -      | -          |
| F2 | 男性 | 90 | 妻・息子        | 吉里吉里   | -              | 吉里吉里   | -          |
| G2 | 女性 | 60 | 夫・<br>息子・娘  | 町方     | 桜木町<br>(みなし仮設) | 桜木町    | 中古戸建て      |
| H2 | 女性 | 60 | 夫           | 桜木町    | 小楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| I2 | 女性 | 60 | 夫・娘         | 安渡     | 大楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| J2 | 女性 | 70 | 息子          | 赤浜     | 赤浜             | -      | -          |
| K2 | 女性 | 70 | なし          | 赤浜     | 赤浜             | -      | -          |
| L2 | 女性 | 70 | 夫・娘         | 安渡     | 小楯             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| M2 | 女性 | 80 | なし          | 須賀町    | 釜石             | 桜木町    | 新築戸建て      |
| N2 | 女性 | 80 | 夫・娘         | 赤浜     | 赤浜             | -      | -          |

【凡例】-: 該当しない

### 5. 近隣交流の変化と減少・促進要因

被災高齢者が自宅再建の際に近隣交流をどのように考えていたのかを明らかにするために、調査1～3より、各再建段階における対象者の近隣交流の変

化と、その減少・促進要因を考察する。

5-1. 対象者全体の近隣交流の変化

対象者の近隣交流の状況に着目する。既往文献<sup>12)</sup>に挙げられた分類を参考に、近隣交流を2つの段階で捉える。家の中には入らず、道端や家の前などで話をする「立ち話」と、より親密な相手を招いたり、招かれたりして家の中で交流をする「家の行き来」である。これを震災前、仮設、再建時の時系列で、震災前を基準にした人数の増減と、交流相手がどの時期に知り合った人かをみる。

Fig. 4 に立ち話の交流人数の変化を、Fig. 5 に家の行き来の場合を表す。立ち話と家の行き来で、仮設時、自宅再建時ともに、交流が減少した対象者が多かったことが分かる。また立ち話に比べ家の行き来が減少した人数が多く、震災後に特に家の行き来が失われたと言える。

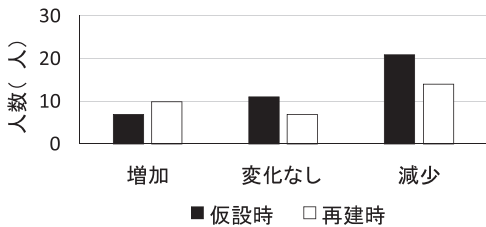


Fig. 4 Number of subjects standing and talking

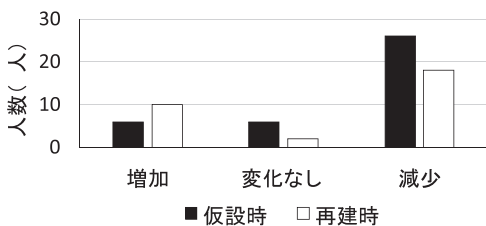


Fig. 5 Number of subjects Coming and going home

5-2. 交流の減少・促進要因

近隣交流を含む対象者の交流全体に関して、何が要因となり変化したのかを明らかにする。インタビューで得られた回答を整理し、交流の増減に関わる言葉を回答からすべて抽出し、共通するものでまとめ、項目化した。また、これらの各要因を促進・減少要因に分類し、さらに自身を原因とする問題と、

相手との双方向性を原因とする問題に分類した。自身を原因とする問題に当てはまらない項目を、ここでは双方向性の問題に含めた。その上で、回答内容から各要因における震災の影響の有無を判断した。震災とその他の影響を含む項目は、場合よるとした (Table 3)。

Table 3 Decreasing factors and promoting factors of socialization

|              | 震災による影響の有無 | 減少要因  | 促進要因                   |
|--------------|------------|---|------------------------|
| 自身を原因とする問題   | 影響あり       | 流されたことによる精神的な変化<br>再建度合いによる隔たり                  | 土地への馴染み<br>-           |
|              | 場合による      | 非社会的な性格<br>-                                    | 社会的な性格<br>仕事・役職・趣味での人脈 |
| 双方向性を原因とする問題 | 影響なし       | 健康上の問題<br>仕事等での忙しさ<br>高齢を理由とする意欲の低下<br>近隣のみでの交流 | -                      |
|              |            | 親しくなるのに時間が足りない                                  | 震災前の知り合いがいる            |
|              |            | 仮設入居・自宅再建時の分散                                   | 日中に人がいる                |
|              |            | 知り合いがいない  | 互いの家の近さ                |
|              |            | 居住環境の変化   | 震災による変化                |
|              |            | 周辺環境の変化   | 施設に通う                  |
|              |            | 話す場所がない   | 共通の話題がある               |
|              |            | 金銭面   | -                      |
|              |            | 施設に通っている  | -                      |
|              |            | 交通手段の変化   | -                      |
| 深い話をしない      | -          |   |                        |
| イベントがない      | -          |   |                        |
| 共通の話題がない     | -          |   |                        |
| トラブルがあった     | -          |   |                        |
| 場合による        | -          | 地域の違い   | 深い話ができる                |
|              |            | 日中に人がいない  | 積極的に交流をする地域性           |
|              |            | 他世代との隔たり  | 他世代との交流                |
|              |            | 交流方法の変化   | イベントへの参加               |
|              |            | 家に引きこもる   | -                      |
| 相手が亡くなった     | -          |   |                        |
| 影響なし         | -          | 性別の隔たり  | 家族・兄弟・親戚との交流           |

【凡例】  
 影響あり:震災による影響がある  
 場合による:震災による影響と、その他の影響を含む  
 影響なし:震災による影響がない

5-3. 立ち話・家の行き来の交流変化の要因

立ち話と家の行き来の減少に影響した要因を探るため、Table 3の交流全体の減少要因について、各項目を何名が挙げたかをみる (Fig. 6)。各減少要因において、挙げた人数が上位3位までの項目に着目する。

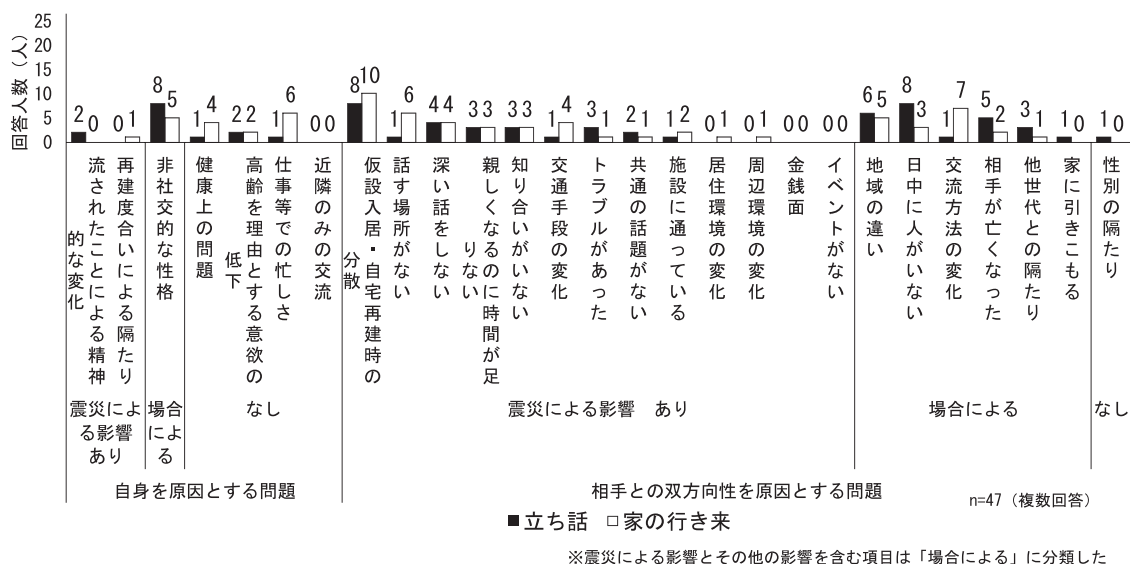


Fig. 6 Factors discouraging standing and talking, Coming and going home

立ち話では、「非社会的な性格」という自身に原因のあるもの、「仮設入居・自宅再建時の分散」、「日中に人がいない」、「地域の違い」、「相手が亡くなった」という双方向性に起因するものが挙げられた。また震災とその他の影響を含む「非社会的な性格」に関して、震災前と異なる地域に再建し「なかなか人の中に（自分が）入っていけない」（G2）など、震災の影響がみられた。このように、5項目全てに震災の影響が考えられる。ここから立ち話の減少に、双方性に起因するものと震災の影響が伺えた。

次に家の行き来に関して上位3位までの項目をみると、自身の問題である「仕事等での忙しさ」、双方方向性の問題として「仮設入居・自宅再建時の分散」、「話す場所がない」、「交流方法の変化」が挙げられた。また震災とその他の影響を含む「交流方法の変化」に関して、仮設時に家の行き来をするのではなく、「談話室があるから、使っていた」（B2）など、震災の影響がみられた。このように4項目中、「仕事等での忙しさ」を除く3項目に震災の影響が考えられる。ここから家の行き来の減少にも、双方方向性に起因するものと震災による影響が伺えた。

このように立ち話・家の行き来の減少には双方方向性の問題と震災が影響していた。中でも「仮設入居・自宅再建時の分散」は双方で上位に挙げられ、高齢被災者の近隣交流が減少する共通の要因になってお

り、分散居住による地域コミュニティの分断の影響が伺えた。

さらに新たに築くことが困難と想定される、家の行き来に着目する。「交流方法の変化」が上位になっており、これは具体的には、家の行き来が施設など拠点を介した交流に変化したことを示している。

また家の行き来の促進要因 (Fig. 7) に「家族・兄弟・親戚との交流」(15名)や「震災前の知り合いがいる」(11名)が挙げられ、交流相手は新たな近隣ではなく、家族・親族や震災前の知り合いであり、震災前の交流関係を維持し、家の行き来を維持していることが分かった。

## 6. 自宅再建時の近隣交流に対する考え

このように自宅再建時に多くの対象者の近隣交流が減少し、その要因としては震災前の地域コミュニティの分断による影響が伺えた。これを踏まえ、再建時に近隣交流を意識していたか否か、またどのように意識していたのかに着目する。

調査3の回答から、自宅再建をした、またはこれから再建をする者として13名をとりあげる。対象者13名がどのような再建方法を選択したのか、内訳をみると、新築戸建て住宅を購入したのはA2, C2, H2, I2, L2, M2の6名であった。また、今後

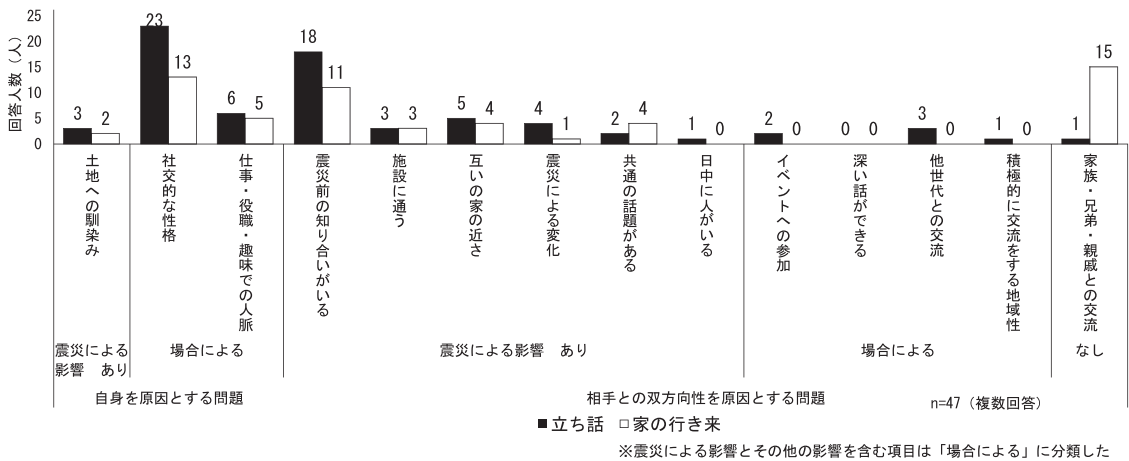


Fig. 7 Factors promoting standing and talking, Coming and going home

新築戸建て住宅を購入したいと考えているのはJ2, E2の2名である。中古戸建て住宅を購入したのはB2, D2, G2の3名であり、災害公営住宅への入居を考えているのはK2, N2の2名である。

この13名の対象者の中から近隣交流を考慮して再建した対象者7名に着目し、住まいの再建において、近隣交流をどのように考えたかを詳しくみてみる。その際にインタビュー回答から、対象者の再建の流れと、再建時の住要求、再建時に住宅、土地、交流をどのように考えていたかに着目した。住要求は、2章で明らかにした再建時に被災高齢者が重視する9項目を用いてどれを重視したかを調査した。

まず新築戸建てを建てて再建済みである対象者ではC2, H2, M2が近隣交流を意識していた。

C2の再建の流れと住要求、再建時の考えをTable 4に表した。再建の流れは住宅と土地に分け、震災後と再建時の状況を表した。住要求は前述した9項目の中で対象者が重視した項目のみを挙げた。また、住宅、土地、交流に関して再建時にどのように考えていたかを、回答を引用して示した。C2は、住宅は流されたが土地は残ったため、そこに再建した。役場の職員をしていたことから「近所で街灯が切れたりしたら、自分に言われるのでそれを対処したりする」など、地域に貢献することで近隣と付き合い合っている。そのため、近所付き合いが維持されていた。

H2は、住宅は流されたが土地は残った。しかし、「最初はここに住みたくなかった、津波がきている

Table 4 Process of reconstruction Case: C2

| 再建の流れ  |            |
|--|------------|
|  | 住宅         |
| 震災前  | 流された       |
| 再建時  | 新築戸建て住宅    |
|  | 土地         |
|  | 残った        |
|  | 同じ土地       |
| 住要求  |            |
| 住み慣れた地域に再建   | 望む居住形態で再建  |
| 再建住宅の近くに知り合いがいて交流する  | 住宅に早く入居できる |
| 再建に行政の支援が得られる  |            |
| 再建時の考え   |            |
| 住宅   |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(自宅再建を考えたのは)土地があったから</li> <li>2013年11月14日に住宅を新築して、ここに引っ越してきた</li> </ul> |            |
| 土地   |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(自分の土地や近くで再建することを重視しているのは)土地があったから</li> </ul>                           |            |
| 交流   |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>近所で街灯が切れたりしたら、自分に言われるのでそれを対処したりする</li> </ul>                            |            |

から」と、土地を売却し、子供との同居を考えていた (Table 5)。だが同じ土地に住む親せきが亡くなり「兄弟が私しかいなくなった」と感じたこと、そして「この人たちをおがんでくれる人がいない、自分が元気なうちにおがんでいこう」と考えたこともあり、震災前の土地での再建を選択した。また、「前からここにいる家庭の人たちは、大抵は (立ち話を) している」ことから伺えるように、近所の輪に入りやすいという状況があり、近隣交流が維持された。

M2は住宅を流され土地は残ったが、異なる土地

Table 5 Process of reconstruction Case: H2

| 再建の流れ   |                     |
|---|---------------------|
| 住宅  | 土地                  |
| 流された  | 土地が残った              |
| 新築戸建て住宅   | 同じ土地                |
| 住要求   |                     |
| 安全な高台に住む  | 近くに商店や郵便局がある        |
| 近くに病院や医療機関がある   | 住み慣れた地域に再建          |
| 望む居住形態で再建   | 再建住宅の近くに知り合いがいて交流する |
| 住宅に早く入居できる  | 再建に行政の支援が得られる       |
| 再建場所が職場に近い  |                     |
| 再建時の考え  |                     |
| 住宅  |                     |
| ・ 災害公営は考えなかった   |                     |
| 土地  |                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初はここに住みたくなかった、津波がきているから。子どもが都会の方にいるからここを売って向こうの方に行くことを考えていたが、行けなかった。</li> <li>・ 実家が大樫。その兄夫婦の孫が亡くなって、六人家族が三人家族になった。自分の実家のことがひっくり返ったようになったので、自分がここから出ていけない、兄弟が私しかいなくなったと思った</li> <li>・ この人たちをおがんでくれる人がいない、自分が元氣なうちにおがんでいこうと思ったので、大樫町を離れられなかったというもある</li> <li>・ 子どもたちは危ないからこいこい、というが、亡くなった親戚がいるからとても離れられない。生きているうちはおまいりしようと思ったのが一番の想い</li> </ul> |                     |
| 交流  |                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前からここにいる家庭の人たちは大抵は（立ち話を）しているが、津波にあって何もなくなり、新しくここを買って住んだ人が家の中にいる。出ない</li> <li>・ 近所の人は挨拶をしたり。周りはほとんど知っている方が多い。家の内容も知っている、老人ホームに行っているとか全部わかっている</li> <li>・ 何もなくなってまちの方からきて家を建てた人はどうなのか。分からないが、私たちは前の土地に家を建てることができたから。馴染まない人もいるのかもしれない、分からないが</li> </ul>   |                     |

Table 6 Process of reconstruction Case: M2

| 再建の流れ   |               |
|---|---------------|
| 住宅  | 土地            |
| 流された  | 土地が残った        |
| 新築戸建て住宅   | 違う土地          |
| 住要求   |               |
| 安全な高台に住む  | 近くに病院や医療機関がある |
| 住み慣れた地域に再建  | 望む居住形態で再建     |
| 住宅に早く入居できる  | 再建に行政の支援が得られる |
| 再建住宅の近くに知り合いがいて交流する   |               |
| 再建時の考え  |               |
| 住宅  |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マンションに入るつもりだった。私も85だから、ちゃんとしたところに住まなきゃと思っていたところに、オリンピックでマンションの完成が遅れることになった。「何歳だと思ってるんですか、85歳ですよ」と社長さんに言って、待ってられないからマンションに入るのを諦めた</li> <li>・ 年が年だから早く家を建てないと考えていた。ちょうど今朝建てた家だったから、あなたが一番に来たから特別に売ってあげると言われたので、決めた</li> </ul>  |               |
| 土地  |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やっぱり生まれたところに来ようと思った、残っているのはここしかなかった</li> </ul>   |               |
| 交流  |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うちのおばあさんが言っていたのは、年をとったら町の中、人のなかというのには頭においとけと言っていた。それをしみじみと思う</li> <li>・ 偶然ここしか残ってなかったから、人とのつながりやまちの中、とここで来たけど、ここは都会的だった。やっぱり製鉄所の人たちの関わりだから、個だ。流れたまちの中とはちょっと違う</li> <li>・ 自分も皆と馴染もうと思って町内会に入ったり、老人会に入ったりしているが、色々参加できる時は参加したりしているが、やっぱり堅い。まちの中での融通性がない</li> <li>・ だから今までのまちのようにいかない。だから仮設にいる時楽しかった。ずっと長屋だったから。すっかり同じ、戸を開けると人がいる、そういう生活を釜石でして楽しかった。家を建てたら自分まで個になったように感じた。誰がどこにいるか分からない</li> </ul> |               |

での再建を選択した（Table 6）。当初は集合住宅に入居する予定だったが、オリンピックで集合住宅の完成が遅れ、待ってられないと入居を諦めた。「年が年だから早く家を建てないと、と考えていた」ため、生まれた土地に来ようと考え、新築戸建て住宅を購入した。「人とのつながりやまちの中、とここで来た」というように交流を重視して再建したが、地域の違いという隔たりから新たに近隣交流を築く困難さを感じている。

次に、今後新築戸建てを建てたいと考えている対象者では、E2、J2が近隣交流を考えていた。

E2は、住宅は流されたが土地は残り、震災前と同じ土地に再建したいと考えている（Table 7）。住宅に関して、「夫婦だけなら災害公営でもいいが、子供らがいるから」と戸建てを希望していた。他に

も「子供の声がうるさい（災害公営では迷惑をかける）。孫が帰ってきて寝るところがないから、早く家を建てなければ」など、子供や孫たちと同居をすることから、戸建てでの再建を考えていた。また震災前と同じ土地で再建し、「（震災前に住んでいた土地と同じところに再建すれば）何人か、前の人と一緒にいる」と考え、「親戚の人とお茶のみできるからそれが楽しみ」など、震災前の近所付き合いを維持して再建し、近隣交流を保った。

J2は再建過程に関してどのように考えていたのか、詳細が不明であるため省略した。

今後、災害公営への入居を考えているのは、K2、N2であった。

K2は戸建ての災害公営住宅には一人暮らしでは入居できないことから、集合住宅タイプの災害公営



Table 7 Process of reconstruction Case: E2

| 再建予定の流れ  |                         |
|--|-------------------------|
| 住宅   | 土地                      |
| 流された   | 土地が残った                  |
| 新築戸建て住宅  | 同じ土地                    |
| 住要求  |                         |
| 安全な高台に住む   | 近くに病院や医療機関がある           |
| 住み慣れた地域に再建   | 望む居住形態で再建               |
| 住宅に早く入居できる   | 再建住宅の近くに<br>知り合いがいて交流する |
| 再建時の考え   |                         |
| 住宅   |                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>一戸建てがよい。夫婦だけなら災害公営でもいいが、子供がいるから</li> <li>子供の声がうるさい（災害公営では迷惑をかける）。孫が帰ってきてても寝るところがないから、早く家を建てなければ</li> </ul>                                  |                         |
| 土地   |                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>今はもとのところ、盛り土してもらったところに入居する</li> <li>（自分の土地やその近くで再建することを）重視している。そこが一番便利、お店とかある、郵便局とかあるし、組合も近いし、バスの停留所も近い。しかしお店がやめてしまった、お店さえできれば便利</li> </ul> |                         |
| 交流   |                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>吉里吉里で家を建てれば、親戚の人とお茶のみできるからそれが楽しみ</li> <li>（震災前に住んでいた土地と同じところに再建すれば）何人か、前の人と一緒になる</li> </ul>   |                         |

住宅での再建を考えていた（Table 8）。また、自身が震災前に居住していた地域の災害公営住宅には住戸数に限りがあることから入居できなかったため、違う土地の災害公営住宅への入居を考えている。ここから近隣交流を重視して再建を考えているものの、違う土地での再建になってしまい、これまでの近隣交流を失うことにつながっている。

N2は家を建てるお金を払っていけないことから、災害公営住宅での再建を考えていた（Table 9）。近隣交流に関しては、「近所の方を大切にしていきたい」と言い、同じ団地に入る人との付き合いを大切にしたいという考えがみられた。しかし近隣交流を重視して再建を考える一方で、震災前の居住地が海の側であることから不安が払拭できず、違う土地での再建を考えている。このように再建に関して、安全性も同時に考慮しており、必ずしも近隣交流を優先して考えてはいない。

このように近隣交流を重視して再建した、または考えている人々の中でも、再建過程や再建後に、近隣交流の実現を阻む様々な問題がみられた。

再建過程では、まず震災前に築いた交流関係がある震災前の土地に再建できないという問題が挙げら

Table 8 Process of reconstruction Case: K2

| 再建予定の流れ  |               |
|--|---------------|
| 住宅   | 土地            |
| 流された   | 不明            |
| 災害公営住宅   | 不明            |
| 住要求  |               |
| 安全な高台に住む   | 近くに商店や郵便局がある  |
| 住み慣れた地域に再建   | 望む居住形態で再建     |
| 再建住宅の近くに<br>知り合いがいて交流する  | 再建に行政の支援が得られる |
| 再建時の考え   |               |
| 住宅   |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>災害公営住宅を申し込み済み、土地の問題で悩んでいる</li> <li>戸建ては一人暮らしでは駄目、集合住宅になる</li> </ul> |               |
| 土地   |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>（自分の土地やその近くで再建することを重視していないのは）自分のところは入れなかったから（住戸数の関係で）</li> </ul>    |               |
| 交流   |               |
| 発言なし   |               |

Table 9 Process of reconstruction Case: N2

| 再建予定の流れ  |               |
|--|---------------|
| 住宅   | 土地            |
| 流された   | 不明            |
| 災害公営住宅   | 不明            |
| 住要求  |               |
| 安全な高台に住む   | 近くに病院や医療機関がある |
| 住み慣れた地域に再建   | 再建に行政の支援が得られる |
| 再建住宅の近くに知り合いがいて交流する  |               |
| 再建時の考え   |               |
| 住宅   |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>（災害公営住宅を選んだのは）家を建てても払っていくのが大変</li> <li>（戸建てタイプと集合住宅タイプの）両方考えた</li> </ul>  |               |
| 土地   |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>（自分の土地で再建することは）海の側だったから、あまり（重視していない）</li> </ul>                           |               |
| 交流   |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>近所の方を大切にしていきたい</li> <li>（これから付き合いを続けたい相手は）同じ団地に入る方。交流を続けてくれるから</li> </ul> |               |

れる。具体的には震災前に居住していた土地が買い上げられ、物理的に再建が不可能になっていた。また災害公営住宅では住戸数が限られている関係で、もとの地域での入居ができなくなっていた。その他に近隣交流を得ることを考慮し再建を考えていても、土地の安全性など他の要素の優先度が高く、近隣交流は必ずしも優先されないということがみられた。

再建後には、近隣交流を求めているも別の地域に再建したことで、新たな近隣に馴染めないという問

題があった。つまり元々住んでいた人との間で地域の隔りがあることや、既に近所付き合いが出来上がっており、中々その輪に入っていけないという現状が伺えた。

## 7. おわりに

本研究では分散居住した高齢者が、近隣交流を維持した自宅再建を実行できる方法を明らかにすることを目的に、実現のための知見を得た。住まいの再建段階における近隣交流の変化とその要因、自宅再建時に近隣交流をどのように考えていたかを明らかにするため、岩手県大槌町で被災高齢者へのインタビュー調査を3回に分けて行った。

対象者の近隣交流の状況を見ると、立ち話と家の行き来において、仮設居住時・自宅再建時ともに、近隣交流が減少した対象者が多くみられた。また立ち話に比べて家の行き来の減少した人数が多くみられ、震災後に特に家の行き来が失われていた。

近隣交流の変化に関係する要因を探るため、近隣交流を含む対象者の交流全体の減少・増加要因を、インタビュー回答から抽出した。加えて自身を原因とする問題と、相手との双方向性を原因とする問題に分類した。また対象者の回答内容から、交流の減少・増加要因それぞれに震災の影響があるかをみた。

近隣交流の減少要因では、立ち話・家の行き来の減少に双方向性の問題と震災が影響していた。中でも「仮設入居・自宅再建時の分散」は双方で上位に挙げられ、高齢被災者の近隣交流の減少に、震災前の地域コミュニティの分断による影響が伺えた。

次に住宅再建時に近隣交流を考慮した対象者が、再建時に近隣交流をどのように考えていたかをみた。結果、近隣交流を重視していても、その実現を阻む様々な要因が再建過程、再建後にみられた。

震災を起因とする分散居住は近隣交流を維持した自宅再建の実現を阻み、また震災前の土地に物理的に住めないことからその問題の解消は困難であった。そのため新たな近隣にどのように馴染み、交流を生み出すかを考えることで、近隣交流を維持した自宅再建を実現する可能性があると推察される。

### 〔要約〕

東日本大震災発生から6年経過したが、被災者は未だ生活再建の途中段階にある。生活再建には交流

が重要とされ、中でも住宅再建時に被災者の近隣交流を考慮することが重要である。近隣交流を維持した自宅再建方法を明らかにするため、住まいの再建段階における近隣交流の変化とその要因、および自宅再建時に近隣交流をどのように考慮していたかを調査する。分散居住をした岩手県大槌町の高齢者を対象にインタビュー調査を行った。結果、対象者の多くが震災後に近隣交流が減少していた。その要因として、仮設入居時や自宅再建時の分散が挙げられた。また近隣交流を重視し自宅再建を考えても、震災前の土地に居住できないこと、必ずしも近隣交流が優先されないことなど、その実現を阻む要因が様々な存在することが分かった。新たな近隣に馴染み交流することで、近隣交流を維持した自宅再建を実現できる可能性があると推察される。

## 謝辞

本研究の調査にご協力頂いた大槌町の方々、サービス施設の皆様に深く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 田村圭子, 立木茂雄, 林春男: 阪神・淡路大震災被災者の生活再建課題とその基本構造の外的妥当性に関する研究, 地域安全学会論文集, 2号, pp.25-32, 2000年.
- 2) 田村圭子, 林春男, 立木茂雄, 木村玲欧: 阪神・淡路大震災からの生活再建7要素モデルの検証—2001年京大防災研復興調査報告一, 地域安全学会論文集, 3号, pp.33-40, 2001年11月.
- 3) 木村玲欧, 林春男, 田村圭子, 立木茂雄, 野田隆, 矢守克也, 黒宮嘶希子, 浦田康幸: 社会調査による生活再建過程モニタリング指標の開発—阪神・淡路大震災から10年間の復興のようす一, 地域安全学会論文集, 8号, pp.415-424, 2006年11月.
- 4) 林春男: いのちを守る地震防災学, 岩波書店, 初版, 2003年6月27日.
- 5) 佐藤栄治: 被災者の住宅再建に向けた意向と課題, 農村計画学会誌, 31巻, 4号, 2013年3月.
- 6) 陸前高田市: 居住意向調査, <http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/fukkou-keikaku/shinsai-fukkou/shiryouhen/shiryouhen>.

- html, 2016年7月20日(閲覧).
- 7) 大槌町: 第1回大槌町地域復興協議会全体会の報告, <http://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/2012021600433/>, 2012年1月4日.
  - 8) 岩手県: 「県内内陸地区および県外へ移動している被災者へのアンケート調査」結果, <http://www.pref.iwate.jp/saiken/jouhou/18235/040702.html>, 2015年11月20日.
  - 9) 若山暖: 石巻市における東日本大震災後の居住地選択に関する研究, <http://www.jicoojin.com/CEM/wp-content/uploads/2016/02/134.pdf>, 2016年7月20日(閲覧).
  - 10) 島田恵司: 岩手県大槌町にみる東日本大震災の復興課題, 自治総研通巻, 421号, pp.1-44, 2013年11月.
  - 11) 関幸子: 岩手県大槌町の震災復興の現状と課題, 東洋大学PPP研究センター紀要, 東洋大学PPP研究センター, 第3号, pp.148-168, 2013年3月.
  - 12) 野口瑠美子: 高層集合住宅における近隣関係研究に関する建築計画的考察, 東洋大学紀要教養学部, 第4号, pp.43-59, 1973年10月15日.

(指導教員: 住居学科 平田京子 教授)